

在宅医療・介護連携推進のための研修会 アンケート結果(保健福祉部会)

資料1

※研修会の参加者 100名 アンケート回収 80名(回収率 80.0%)

1. 職種

職種No	職種	人数
1	医師	0
2	歯科医師	0
3	薬剤師	0
4	看護師	6
5	保健師	2
6	理学療法士	2
7	作業療法士	1
8	言語聴覚士	0
9	栄養士・管理栄養士	0
10	歯科衛生士	0
11	MSW	2
12	社会福祉士	13
13①	(訪問)介護職	5
13②	(通所)介護職	2
13③	(施設)介護職	0
13	(所属未回答)介護職	1
14	ケアマネジャー	32
15	その他	14
0	未回答	0
合計		80

2. 所属

所属No	所属	人数
1	病院部会	2
2	医師会部会	0
3	歯科医師会部会	0
4	薬剤師部会	0
5	施設部会	1
6	デイネット部会	2
7	ヘルパーネット部会	1
8	訪問看護ネットワーク部会	4
9	訪問リハネット部会	3
10	ケアマネット部会	24
11	グループホーム部会	0
12	小規模多機能部会	1
13	町内会/民生委員等	0
14	保健福祉部会	23
15	その他(障害者サービス、行政等)	16
0	未回答	0
合計		77

3. 研修の反応

(1)わかりやすさ		人数
1	わかりやすい	39
2	まあまあわかりやすい	36
3	どちらでもない	1
4	あまりよく分からない	3
5	全く分からない	0
0	未回答	0
合計		79

(3) 今後に活かせるか		人数
1	活かせる	48
2	部分的に活かせる	25
3	どちらでもない	3
4	あまり活かせない	0
5	全く活かせない	0
0	未回答	0
合計		76

(2) 満足度		人数
1	満足	35
2	まあ満足	41
3	どちらでもない	3
4	やや不満	0
5	不満	0
0	未回答	0
合計		79

4. 「8050」の支援にあたり、各機関との連携に必要なものは何だと思いますか？

- ・ 今回のような研修。そしてグループワークをガッツリ行いたいです。包括さんとケアマネさんの違いが分かりました。
- ・ 顔のみえる関係をより築けると思います。
- ・ 金銭管理について、法、行政の仕組みを知る。
- ・ 顔の見える関係、連携
- ・ まとめ役
- ・ 互いの仕事内容の理解、把握、どこへ聞けば良いか分かるが良い
- ・ 顔のみえる関係づくり

- ・ 多職種で事例検討を重ねる機会
- ・ 互いの専門性の考え方の違いから知ること
- ・ 様々な職種の人たちと話し合う機会を作っていく
- ・ 情報交換
- ・ 顔見知りになる事
- ・ 顔が見える関係をより一層深められたら良い
- ・ 障害かどうかの見極めをして、適切な支援方法を学ぶ
- ・ 情報共有、チームワーク
- ・ 顔合せ 会議
- ・ 他機関のできることを知る。困った時に尋ねれる関係
- ・ 包括の連携、地区社にも必要
- ・ 他機関への理解と活用
- ・ 各職種のレベルアップ、連携(特に障害福祉課)
- ・ 顔の見える関係
- ・ 相談しやすい関係づくり
- ・ 各機関ができることを知ること
- ・ 相手を知ること
- ・ お互いに職種の役割を知ること
- ・ 顔のみえる関係
- ・ お互いのできることを少しずつ知る必要がある。
- ・ 個別ケースに対し、早期のうちから各専門機関担当者へ情報を共有すること。
- ・ グループワーク内で連携とっていきましょうと意見が一致しました。これからは必要です。
- ・ 情報の開示と連携だと思えます
- ・ 一緒に動くという気持ち。他の職種への理解。
- ・ 各機関への知識、相談窓口の情報
- ・ お互いを知り、情報を共有して、同じ目的で関わっていく
- ・ 各機関への理解
- ・ 情報共有のツール(サルビー普及)、それぞれの職能を理解しあう
- ・ 他職種について知識不足があるため、知識が得られると良いと思った(今回で少し得られた)
- ・ 障害支援について知らないことが多く、顔を見てお話しできる機会になり勉強になった。
- ・ 前向きに協力し合いTRYしていく
- ・ それぞれの職種のできることを知る
- ・ お互いの支援内容の共有
- ・ 各専門職の力を借りて、支援ができるように相談にどんどん行き、専門職機関の人の顔を知る。
- ・ 各職種によって、いろいろな見方ができると思います。今回のような研修等通して顔がわかりやすいと、より連携がしやすくなると思います。
- ・ 適切に支援機関につなげることが大切だと思いました。
- ・ 連携をするために地域性を知ること。
- ・ 各機関の役割を知ること。
- ・ 専門職のネットワーク

- ・何でも相談してみることに
- ・こういった研修参加を通じて、直接顔を合わせることに
- ・縦割りではなく、横のつながりです。顔を合わせる機会を持つ
- ・お互いの役割を知ること
- ・他職種の方との関わり
- ・関連期間内でのある程度の情報開示
- ・連携、情報の共有、支援の継続
- ・こういう人がいたら、ここに連絡するというようなフローや連絡先一覧があるといい
- ・障害に対する相談(どこにどんなことを相談できるのか)
- ・各職種の協力、それぞれの強み(知識)を当事者に向ける意識と力
- ・相談窓口の把握、各機関の機能について知ること
- ・情報共有、職種を尊重する
- ・子供への介入まではCMとしては難しいので、ここにこんな人がいるという相談だけでも自由にでき、情報共有できると良い。
- ・各機関の役割をしっかりと把握しておく
- ・
- ・

5. ご意見・ご感想等

- ・連携していけば様々なアイデアがでるんだと思いました。
- ・普段関われない方と話ができて、視点や関わりについて室ことができ、自分の学ぶ意欲につながった。
- ・このような機会増えることで互いに色々なアイデアが出しやすくなってきているように思います
- ・ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。またお願いします。
- ・困難ケースと思われたケースも各専門職で意見を出しあって糸口が見えてきたので勉強になりました。
- ・グループワークの時間が不足してしまった。もう少し時間をとっていただけると、より深めた意見交換ができたと思います。
- ・色々な立場の方がみえて、私の知らない状態ばかりで勉強になりました。
- ・ポストイットへ記入するために、細マジックがあると見やすく良いと思います
- ・もう少し時間がほしかったです
- ・顔の見える関係、多職種のことを学ぶことができた
- ・他職種の人と話せる機会があると本当に勉強になります。
- ・「地域の理解」「まちづくり」の大切さが良くわかりました。
- ・各々の役割、昨日を理解することができました。
- ・グループワークがもう少し長い方がいいと思いました。
- ・グループに包括、社協、ケアマネ、看護師、障害の多職種がいて自分の視点が広がった。
- ・事例を通じて勉強でき参考になりました
- ・色々な職種の方の考えを聴くことができて、とても勉強になりました。
- ・ツール(使いやすい)
- ・勉強になりました。
- ・障害者の相談窓口でコーディネーターという方がいるのを初めて知りました。今後、困ったことがあったら、相談していきたいと思います。